

授業科目

小児発声発語障害学II

担当教員名 渡辺 時生	対象学年	2	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎			

授業の概要

吃音は、単なる発話の症状のみに留まらず、言語・心理・社会的要因を含む多要因からなる発話の流暢性障害であると考えられる。幼児、学童、青年以降で対応の要点も異なり、全人的な支援のあり方が望まれる。本授業では、吃音の基礎的知識から評価、治療、支援について包括して学ぶ。

授業の目的

吃音の基礎知識を身につける。
吃音の評価、診断、治療を理解する。
吃音者の困難や心理を理解し、適切な援助を考える。

学習目標

- 1.吃音の定義、発生、症状など基礎知識について説明できる。
- 2.吃音症状の進展、可変性、重症度について説明できる。
- 3.吃音検査法（改訂版）を説明できる。
- 4.吃音治療の概要について説明し、適切な治療法を選択できる。
- 5.間接的言語訓練について、適応・方法を説明できる。
- 6.直接的言語訓練について、適応・方法を説明できる。
- 7.吃音事例を通じ、実際の治療、援助において必要な事柄を説明できる。
- 8.吃音者のセルフ・グループ活動について理解し、望ましい支援のあり方を説明できる。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	吃音の基礎知識（概要）	講義	渡辺 時生
2	吃音の定義・原因論等	講義	渡辺 時生
3	吃音症状分類	講義	渡辺 時生
4	吃音の鑑別・進展段階・重症度など	講義	渡辺 時生
5	吃音の評価・診断・治療の概要	講義	渡辺 時生
6	幼児吃音（1）評価・診断を中心に	講義	渡辺 時生
7	幼児吃音（2）環境調整法、遊戯療法	講義	渡辺 時生
8	幼児吃音（3）リッカム・プログラム	講義	渡辺 時生
9	学童吃音 評価・診断・治療の概要	講義	渡辺 時生
10	小児（幼児・学童）のまとめ	講義	渡辺 時生
11	成人吃音（1）流暢性形成法・吃音緩和法（理論）	講義	渡辺 時生
12	成人吃音（2）流暢性形成法・吃音緩和法（事例検討）	講義	渡辺 時生
13	成人吃音（3）認知行動療法的アプローチ、メンタルリハーサル等	講義	渡辺 時生
14	吃音セルフヘルプグループについて	講義	渡辺 時生
15	まとめ	講義	渡辺 時生

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第2版	藤田郁代（監修）、熊倉勇実（編集）、今井智子（編集） 他	医学書院	2015年	5,000円 + 税	
	改訂 言語聴覚療法シリーズ13 吃音	都築澄夫編著	建帛社	2008年	2,625円	

参考書	コミュニケーション障害の臨床 (2)	日本聴能言語士協会	協同医書出版	2001年	3,150円	
その他の資料						

評価方法

期末試験 100%

履修上の留意点

オフィスアワー・連絡先

月曜日 12 : 10 ~ 13 : 10
tokio-w@nuhw.ac.jp